

第5回 令和6年能登半島地震災害復興対策特別委員会 会議録（要旨）

開催日時	令和6年12月10日（火） 9時57分～11時27分
開催場所	全員協議会室
出席委員	中川 達 委員長、中村 聡 副委員長 土屋克之、西尾雄次、磯貝幸博、川口正己、恩道正博、北川悦子、夷藤満、清水文雄、南 守雄
欠席委員	（なし）
オブザーバー	七田満男 議長
傍聴者	（報道機関）
説明員	川口 町長、上出 副町長、桐山 教育長、松井 総務部長、北野 総務部担当部長、助田 町民福祉部長、中川 町民福祉担当部長、上前 都市整備部長、宮本 都市整備部担当部長、重島 消防長、上出 教育部長、山田 総務課長、北 財政課長 奥田 企画課長 法利 企画課担当課長
事務局・書記	堀川 議会事務局長、川端 事務局次長兼参事、中村 書記

議 件

（1）内灘町災害公営住宅建設について

<主な質疑>

意向調査について

【委員】

提出締切日を1月末日までに出来ないか。

【説明員】

見直しする。

【委員】

災害公営住宅の建設地区について、鶴ヶ丘5丁目、白帆台ⅠC付近（権現森公園）のほかに、白帆台以北も選択肢に示すべき。

【説明員】

見直しする。

【委員】

災害公営住宅の家賃に関する記述が難しい。入居世帯構成員の事例等を示して分かりやすくすべき。

【説明員】

見直しする。

その他

【委員】

災害公営住宅の建設候補地について、11月22日の復興対策特別委員会に示されないまま、11月27日以降の被災地区での住民説明会の場で突如示された。その経緯を聞く。

【説明員】

8月のアンケート調査の結果を踏まえ、災害公営住宅の整備が必要と判断。南部地区・北部地区それぞれに整備することを10月に決定。南部地区は、鶴ヶ丘5丁目の町有地が確保できるが、北部地区には適当な町有地がなかった為、町有地以外の用地を検討。権現森公園内の県有地について、県と協議に入ることが出来たのが11月27日の地区説明会の直前であった。被災者の不安を一刻も早く解消するためにも、地区説明会において災害公営住宅の整備予定について説明した。

11月22日の復興特別委員会で、災害公営住宅候補地について説明に至らなかったことについてお詫びする。

【委員】

白帆台北部に隣接する場所の宅地造成の話はどうなったのか。県にも要望しているのではないのか。

権現森付近では、その後の発展が望めない。若い人達の意見を聞き、希望が持てるような白帆台北部の宅地開発が必要ではないか。

【説明員】

当該用地の地権者と交渉したが、畑作を継続する意向があり、早期事業化は困難と判断した。

災害公営住宅については、一刻も早く整備できる場所を選定した。白帆台北部の宅地整備については、時間はかかるが、事業を進めていきたい。

【委員】

地区の要望等が町へ届いていないという事があるのか。

【説明員】

聞いていないものもあったので、地区協議会には職員が出向き、話を聞くようにしたい。

【委員】

災害復興計画（基本計画）とまちづくり計画は、同時に策定すべきではないか。

【説明員】

まずは、町の復旧復興の道しるべとなる基本的な考えを示し、それに基づきまちづくり計画を策定していきたい。

（２）その他

- ・（特になし）

（以上）